

# 日本空手道 誠道会館 一般部 試合規則 (要旨)

- 試合は、直接打撃制による組手により、連盟が定める本規則に則って、お互いが自由に攻撃・防御し、勝敗を決するものとする。競技者は、礼儀を第一義とし、お互いを敬う心を持って試合に臨むものとする。
- 試合は本規則に則って実施され、一般部(高校生相当以上)は、原則的に『**アダルト・ルール**』を採用する。
- 選手は、試合場内で試合を行う。「試合場内」とは、試合場のマットとする。

## ○ 階級分類・試合時間

		階級分類	試合時間
<b>アダルト・ルール</b>	トーナメント	階級別	【男性】本戦 2:00 / 延長戦 2:00 / 階級分類(体重)判定 / 再延長戦 1:00(※1) 【女性】本戦 2:00 / 延長戦 2:00 / 階級分類(体重)判定 / 再延長戦 1:00(※1) <b>【壮年】本戦 2:00 / 延長戦 1:00(※2)</b>
		ワンマッチ	諸条件を考慮 【男性】本戦 2:00 / 延長戦 2:00 / 階級分類(体重)判定 / 再延長戦 1:00(※1) 【女性】本戦 2:00 / 延長戦 2:00 / 階級分類(体重)判定 / 再延長戦 1:00(※1) <b>【壮年】本戦 2:00 / 延長戦 1:00(※2)</b>

※1 階級分類(体重)において、判定値が同値だった場合は、マストシステムで再延長戦を行う。

※2 **壮年部は 40 歳以上とし、マストシステムで延長戦を行う。**

## ○ 技の威力・効果により「一本」「技有り」の判定を行い、「技有り」2本で「合わせ一本」とする。

	一本勝ち	技有り
<b>アダルト・ルール</b>	○ 有効技を決め、相手選手を完全にダウン(5秒以上)させた時。	○ 有効技を決め、相手選手を瞬間的にダウンさせた時。 ○ 有効技を決め、相手選手を瞬間的に戦意喪失させた時、および、動きが大きく崩れた時。 ○ 相手選手の動きが崩れなくても、棒立ちで攻撃を受けて、技の効果が有ると認められた時(スタンディングダウン)。

- **反則は積算方式とし、「注意 3」で相手選手の「技有り」に相当し判定の材料となる。**
- 組手の勝敗は、一本勝ち、技有り 2本による合わせ一本勝ち、注意差による判定勝ち、注意差が無い場合は試合内容の優勢による旗判定勝ち、相手選手の失格・棄権による勝ちによって決定される。
- 旗判定で勝敗を決定する場合、技有り・注意に差があれば技有りがあり、注意数の少ない選手を勝ちとする。注意差がない場合は、旗判定により審判 3名のうち 2名以上の判断で試合内容が優勢と認められた選手を勝ちとする。
- 優勢勝ちの判定基準は、武道という観点から、**①ダメージ(技の威力)②クリーンヒット(的確で有効な攻撃数)③攻撃数(的確ではない攻撃も含む)④積極的な組手**の順で判断し、以上の点でも差が無いと認められた場合、引き分けの判断をする。

優勢判定順位
<b>ダメージ &gt; クリーンヒット &gt; 攻撃数 &gt; 積極性</b>



### 《有効技一覧》

- 上段・中段への前蹴り・横蹴り・後ろ蹴り・かかと落とし等
- 上段・中段・下段への回し蹴り・後ろ回し蹴り・内回し等
- **上段・中段・下段への膝蹴り等**
- 後頭部を除く上段・中段へのあらゆる突き・打ち等
- 中段への肘打ち
- 足払い技でダウンさせた相手を下段突きで決める動作(技有り)
- **片手による一瞬の「かけ」からの膝蹴り(片手であれば 相手の首のどちら側から かけても可)**
- **蹴りを一瞬取ってからの攻撃**

### 《反則技一覧》

#### 注意

- 下腹部への攻撃
- **手・腕・肩による押し(あきらかな場合)** / 頭を当てた状態での攻防
- 時々攻撃していても 後ろへ逃げ続けるような消極的な試合態度 / 技のかけ逃げ・倒れながらの時間かせぎ / 自分の判断で試合を中断する行為
- 有効技として認められた部分以外への攻撃(特に後頭部・関節正面方向からの蹴り・上段膝蹴り等)
- 攻撃を伴わない「つかみ」「かけ」及び「首相撲」
- 攻撃が届かないような距離で逃げ続け 試合にならないような場合 / 明らかに背を向けて逃げ出すような場合
- 頭突きによる攻撃 / 背後からの攻撃 / 規定外防具の着用
- 故意による有効技として認められた部分以外(特に後頭部・下腹部等)への攻撃(厳重注意)
- 「待て」「止め」の合図がかかった後の攻撃 / 倒れた選手への攻撃
- 「投げ」や関節に対する「逆技」 / 明らかな「体当たり」
- 審判・相手選手に対する悪質な言動 / 防具の不備(未着用)

#### 反則負け・失格負け

- 目突き・かみつきの常識的に不適当と認められる攻撃
- 防具不備・規定外防具の着用による 2分以上の中断 / 試合時間までに準備ができていない場合

※ 審判は、危険或いは試合に不適当な行為と判断した場合、上記以外の場合でも、反則を宣告することがある。